

社会福祉法人の地域公益事業 実施状況アンケート 報 告

集計期間：令和3年8月2日（月）～8月20日（金）

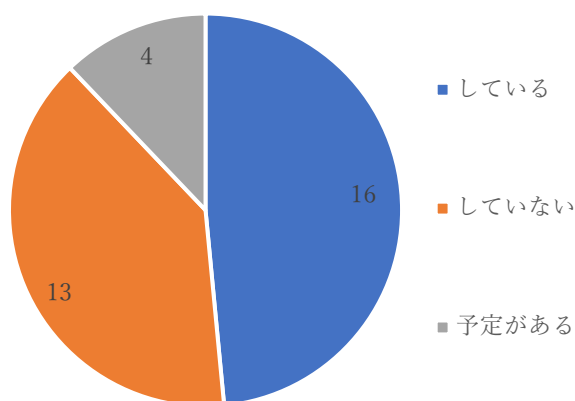
集計方法：アンケート用紙による回答、並びに伏見区社協 HP 上での回答

回 答 率：24%（33 施設／139 施設）

分野比率：高齢分野 27%（9 施設）、児童分野 61%（20 施設）、障がい分野 12%（4 施設）

施設（法人）独自の取組みについてお聞きします。

① 実施している	16 施設
② 実施していない	13 施設
③ 現在は実施していないが、する予定がある	4 施設

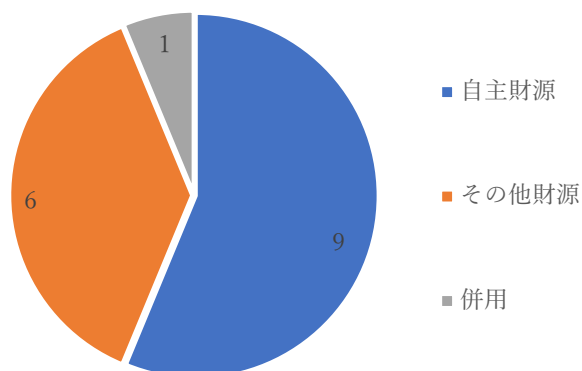


<実施している独自事業>

- 子育て支援「福ちゃんぐみ」親子で楽しくリトミック
- 人形劇団京芸鑑賞
- チャレンジ就労体験事業
- 福祉有償運送
- 桃山学園祭
- 支え合い活動入門講座
- 園庭解放事業
- 高齢者と乳幼児交流 音読会
- 中高生世代と赤ちゃんの交流事業
- ふれあい WAKABA フェスタ
- 小学校での車いす体験
- すみにし広場
- ひよこクラブ
- 健康長寿サロン カフェふじしろ

<実施している独自事業の財源>

① 自主財源	9 施設
② その他財源	6 施設
③ 自主財源とその他財源を併用	1 施設

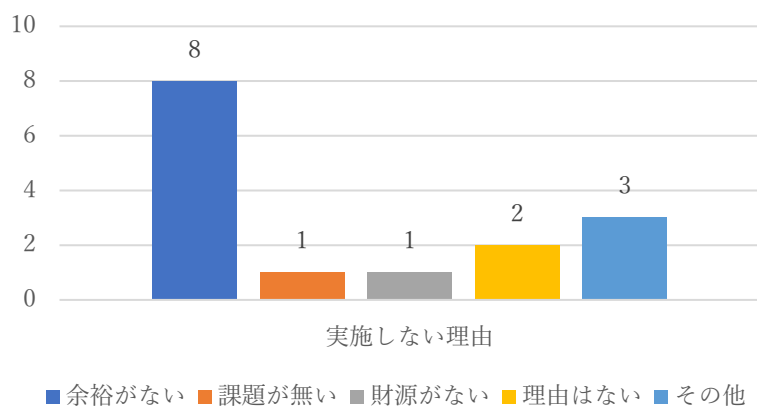


<活用しているその他財源>

- 健康長寿サロン設置等補助金
- 京都市からの補助金

取組みを実施していない理由がありましたらご記入ください。(複数回答可)

① 実施する余裕がない	8 施設
② 取組む課題がない	1 施設
③ 取組む財源がない	1 施設
④ 特に理由はない	2 施設
⑤ その他	3 施設



<その他の内訳>

- コロナ禍により開催できない (3 施設)

どのような事業を予定されているか、可能な範囲でご記入ください。

- 中学生チャレンジ大会 ○ 園庭解放「遊びにきませんか」
- 就労前の子どもと保護者対象の子育て支援
- 生きいきサロンのボランティアの自立を促すための研究会の立ち上げ
- 親子の交流、特に親同士の交流や情報交換の場所と時間の提供
- 車いす体験 ○ 見学者の受け入れ ○ 地域交流のまつり開催
- 地域交流スペースの貸出 ○ 車いす等介護用品の貸出
- 児童館児童の児童をデイ夏祭りへの招待
- 醍醐いきセンと地域包括と共催での認知症カフェ

予定されている事業に支援や協力が必要かご記入ください。

① 支援や協力を必要としている	3 施設
② 支援や協力は必要ない	3 施設
③ 回答なし	27 施設

公益活動を行ったことで良かったことをご記入ください。

- 板橋学区の基幹ステーションに指定され、公益活動を行う事で様々な各種団体との連携を深めることが出来、様々な情報を共有し、協力・支援を受けることが出来ている。
- チャレンジ就労体験事業に参加した人が就労につながり、活躍されている。
- 地域住民との関わりも深くなり、学園に対する理解もいただけている。地域の自治会にも参画する中で、様々な行事等にも参加させていただいている。
- 「支え合い活動入門講座」を毎年開催することで、参加者に高齢者を取り巻く現状や課題、地域での支え合い活動の事例を知ってもらうとともに、地域でボランティア活動されている高齢者の活動が可視化され、老人福祉センターも地域のボランティア活動が高齢者を通じて理解できたこと。
- 担当保育士や他の親子たちと交わり話し合うことで子育てに関する悩みや不安を取り除く援助が出来ていること。
- 高齢者の方が、近隣でも顔を合わすこと、お話しすることがなかったが、スマイルで月 1 回、音楽会、工作会講座があり、皆とお話できてうれしいし、楽しい。と皆さんが言って下さる。「お茶しましょうか」がコロナでできなくなりましたが、その分、講座で「保健センター」「警察」「消防署」「図書館」など、お願いし実施しています。※ホームページに毎回アップして紹介しています。
- 地域の子は地域で育てるをモットーに、各種団体と連携し、地域の財産として、宝としての子育てを推進できている。

- リピーターが多いのは、そのような活動が求められているということ。それを提供できることは喜ばしい。
- 藤城学区は高齢者の方が集まる場所やお店が少なく、カフェを利用される方が多い。
- 小学生の障がい者への理解のきっかけに役立てることが出来た。また当施設の利用者の方にも講師役として参加をしてもらっているので良い経験となり成長に繋がっている。
- 参加された方が楽しんで下さったり、他の参加者や保育士と話をすることで、悩みが軽減されたりすることがあります。又、園庭解放をきっかけに、入園につながることも、良かった点として挙げられます。
- 事業参加者から「来所することが健康づくりと楽しみです」と聞けること。
- 共に地域に住んでいる方々との交流はありがたいことです。
- 家庭での子育てについての悩みなどを聞くことが出来る。
- 地域住民との親睦が図れる他、親密になることによりタイムリーな地域の情報が入手できる。
- 地域との接点が広がることでアウトリーチしやすくなる。
- 中高生も児童館の活動について知ってもらえる機会となった。
- 年に1度のイベントではあるが、子どもの活動や、施設について、地域の方々に知っていただく、触れることで理解につながる貴重な機会となっている。

公益活動を行う上で課題だと思ふことについてご記入ください。

- 新型コロナウイルス感染症の為、公益活動を行う上での対象人数制限等、様々な葛藤がある。
- 公益活動の大切さに対する職員の理解や、実際に行う際の動機付けや時間、労力の提供。
- 利用者が必要とする情報を、提供する立場にある関係機関や団体間で、連携やネットワークが不足していること、また、関係団体と利用者との関係構築が課題である。したがって、老人福祉センターとしては、これまで以上に伏見区社会福祉協議会をはじめとする関係団体と地域におけるボランティア活動等の情報を共有できる関係を構築していきたい。
- 人の命を預かる仕事上、安心安全な日々を送るうえでの多くの課題がある。例えば事故や病気けがなどについての対応や自然災害など。
- 自由に使える場所の確保。
- 自力で来れない方への対応。
- 現在、コロナ禍であり感染対策を行いながら事業を実施することが難しい状況である。もちろん有意義な活動ではありますが、リスクを冒してまで実施するかとなると難しい所であり、逆に実施したことで感染拡大に繋がるようであれば本末転倒になってしまう恐れがある。
- 職員数が限られている中で、園庭解放に出る職員を捻出しているため、そのやりくりが難しい。
- 魅力ある事業の開設や、各種事業への参加者をいかに増やすかが課題。
- 多くの方に知ってもらいたいが、広報等の発信が課題。
- 支援が必要ないところで活動を行いたいと思うが、活動の規模が大きくなったところで即座に相談にのっていただけるのかどうか。

- 運営費もあるが、人手の捻出。
- バザーや物販など、イベント参加のみが目的の方もおられる。年1回のイベントでは多くの来場をいただくが、その他の機会にも施設や法人に親しみを持っていていただけているかどうか。

その他、公益活動の実施にあたってのご意見がありましたらご記入ください。

- 地域における社会資源として公益活動は重要と考えます。
- 支え合い活動入門講座を通じて、今後は大学や地域住民との連携・協働を検討し、高齢者が大学生や地域住民とともにボランティア活動に参加してもらうためのきっかけづくりをしたい。
- 私が講座や音読の企画をはじめたので、開催日設定調整に苦勞しています。頭の体操・脳トレなど、シルバーセンターの方にも相談して、今後、実施したい。
- 当法人の中心は保育園であるが、職員が安心して働ける職場の確保が重要である。給与面、待遇面など、要望すべき点は多い。
- 再開のタイミング。
- センターとしてふれあいまつりなども実施していましたがコロナ禍によりここ2年は開催を見送っています。コロナ禍でも実施できる公益活動を模索する必要があるかと思えますし。社協さんからも逆にこういう公益活動を実施してもらいたいという情報提供があると有難いかと思えます。
- 事業の特性を活かし、社会福祉に貢献したいと考えております。
- 区社協さんとも連携できたらありがたい。
- 法人の理念に沿った形で、職員の負担を増大させないように配慮しつつ行いたい。
- コロナ禍が終息を迎えれば、買い物支援（送迎）やこんこんカフェの再開を検討しています。

2022年1月26日

伏見区地域福祉推進委員会

（事務局：伏見区社会福祉協議会）